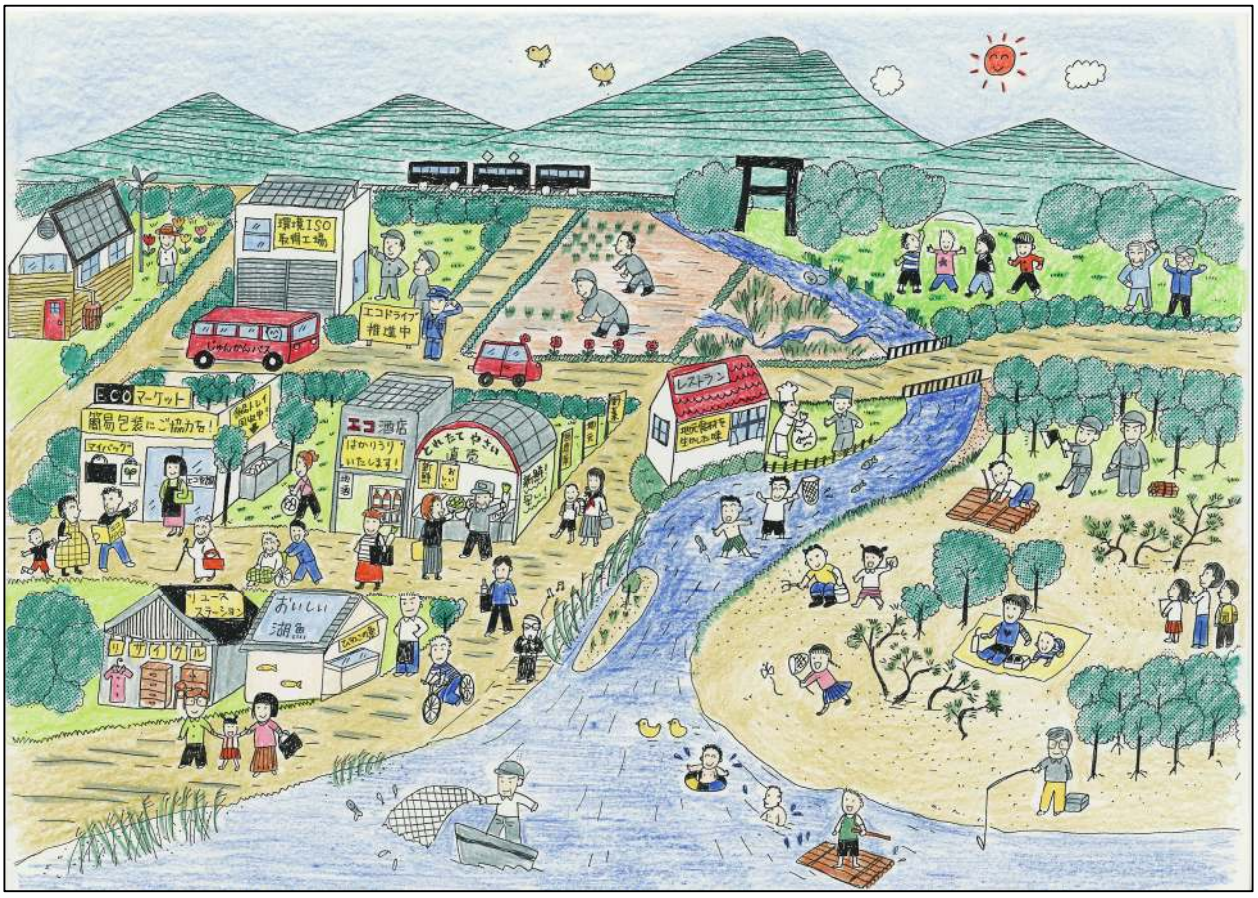
環境基本計画推進会議

「水と緑・安心の野洲」

平成 27 年度　通常総会　議案書



と　き：平成 27 年4月 24 日(金)　13:30～15:30

ところ：市民活動支援センター(図書館)　ホール

環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

平成２７年度　通常総会　次第

平成 27 年 4月 24日（金） 13：30～
市民活動支援センター（図書館）　ホール

１．開　　会

２．挨　　拶

３．ご来賓挨拶

４．講　　演
「環境基本計画推進会議のこれまでの８年間の実践評価」
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 総合解析部門 研究員　佐藤 祐一 様

５．議　　事
第１号議案平成 26 年度事業報告について
第２号議案平成 26 年度収支決算について
第３号議案平成 27 年度事業計画（案）について
第４号議案平成 27 年度予算（案）について

６．そ の 他

７．閉　　会

第１号議案

平成２６年度 事業報告

各部会の活動実績（総括）

平成 26 年度は、これまでの活動を継続して行っていく中で、関係団体・組織との連携や活動の積極的な情報発信を通じて、プロジェクトの周知と活動の参加を呼びかけた。その結果、学習会や啓発イベントのほか、関連事業を含めると計 209 回開催し、延べ約 5,800 人の市民の参加を得ることができた。また、活動時にはえこっち・やすロゴマーク入りスタッフベストを着用したり、ニュースレターの発行による広報活動等を通じて、各種啓発や周知を図った。

自然部会は、昨年度から引き続き県のマザーレイク 21 計画との連携を図るなか、里山から川、緑地、田畑、そしてびわ湖までの一連の自然環境の保全をめざした活動を展開した。各プロジェクトにおける活動主体が中心となり、多くの市民に対してプロジェクトの趣旨を普及・啓発するとともに、野洲市の自然に親しむ機会を提供した。

エコ資源部会は、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向けた仕組みづくりをめざし、市民参加によるプロジェクトの実践（廃食油の利用促進･リユースの促進）で、３Ｒ推進を図った。また、まち・くらし部会と合同で先進的な取り組み事例への視察研修会を実施し、他部会との情報意見交換も図りながら、会員の資質向上に努めた。

まち・くらし部会は、一人ひとりが身近な暮らしで実践できる環境に配慮した行動（レジ袋の使用削減、エコドライブ）を普及させるため、キャンペーンや講習会を開催し、改めてライフスタイルの見直しを呼びかけた。また、出前講座（人形劇・エコダンス）を通じた啓発講座の拡充に努め、市内小学校でも新たに１校取り入れられた。

運営委員会の開催

第 １ 回（平成 26 年 ４ 月） 総会の内容について 等
第 ２ 回（平成 26 年 ６ 月） 予算確認について 等
第 ３ 回（平成 26 年 ８ 月） 活動報告、新クリーンセンターについて等
第 ４ 回（平成 26 年 10 月） 活動報告及び予算執行状況について 等
第 ５ 回（平成 26 年 12 月） 第２期環境基本計画の進め方について 等
第 ６ 回（平成 27 年 ２ 月） 活動報告、次年度計画について 等

平成 26 年度　プロジェクト活動の実績

自然分野　　【　　自然部会　　】　　※人数は概算含む

	概　　要	回数	人数	プロジェクト名
川	家棟川エコ遊覧（※砂浜学習会含む）	48	627	・「おらが川」人が親しめるきれいな川づくり
	ホタルの住める川づくり	15	121	
	流域ネットワークづくり（「水・生物多様性フォーラム」の開催）	1	47	
	家棟川・びわ湖清掃活動	9	215	
	家棟川流域生態調査	17	350	
	小計	90	1,360	
里山	里山保全活動	25	332	・野洲の里山の自然に触れよう、知ろう ・野洲の自然を次世代につなぐ「自然案内人」を増やそう ・山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう
	子どもや市民が里山に親しむ活動	5	322	
	「森づくり塾」	4	105	
	野洲の山を知る探索	8	112	
	小計	42	871	
びわ湖	びわ湖に親しむイベント（あやめ浜まつり）	1	112	・琵琶湖を身近なものにしよう ・葦地帯をみんなで増やそう
	漁民の森づくり事業	1	136	
	びわ湖学習会・ヨシ苗ポットづくり体験	2	214	
	ヨシ植えイベント	1	270	
	小計	5	732	
緑	河辺林保全活動	40	506	・河畔林の再生 ・まちなかの緑ボリュームアップ大作戦 ・鎮守の森再生
	野洲川北流跡自然の森カブトムシ幼虫観察会	2	230	
	野洲川北流跡自然の森タケノコ堀イベント	1	50	
	野洲川北流跡自然の森秋の自然観察会	1	33	
	樹木の管理と剪定講習会	1	30	
	小計	45	849	
農業	環境保全型農業視察研修会	4	58	・環境保全型農業推進計画
	生き物観察会	1	200	
	小計	5	258	
分野（部会）小計		187	4,070	

ごみ・資源分野　　【　　エコ・資源部会　　】

	概　　要	回数	人数	プロジェクト名
環境学習	出前講座（リサイクルペーパーアート）	4	136	・みんなで進める環境学習
生ごみ資源化	先進事例視察研修会	1	20	・生ごみ資源化システムづくり
廃食油再利用	出前講座（エコキャンドルづくり）	2	141	・天ぷら油を捨てずにエネルギー（BDF）化しよう
リユース	リユース物品無償譲渡会	2	82	・お得で楽しいリユースステーションをつくろう
分野（部会）小計		9	379	

まち・くらし分野　　【　　まち・くらし部会　　】　　※人数は概算含む

	概　　要	回数	人数	プロジェクト名
ごみ減量	出前講座（人形劇・エコダンス）	8	418	・ごみを出さな売り方・買い方が広がるまち
	マイバック持参、レジ袋削減啓発キャンペーン	1	8	
	小計	9	426	
エコドライブ	エコドライブ教習会	1	13	・一人ひとりが自動車社会を見直す「エコドライブ」活動
事業所環境保全	環境研修会	2	48	・事業所環境保全取り組み向上プロジェクト
分野（部会）小計		12	487	

その他・関連　　※人数は概算含む

	概　　要	回数	人数	プロジェクト名
	収穫祭	1	850	・山・川・里・湖の『つながり』再生プロジェクト
小　　計		1	850	

合　　計	209	5,786	・概算含む

※参考

平成19年度	32 回	1,445 人	平成22年度	95 回	3,692 人	平成25年度	206 回	5,614 人
平成20年度	66 回	1,901 人	平成23年度	124 回	4,015 人			
平成21年度	111 回	3,888 人	平成24年度	149 回	4,890 人			

自然分野　事業報告

１．プロジェクト ：『おらが川』人が親しめるきれいな川づくり

① 家棟川エコ遊覧の開催 （4 月～11 月　48 回実施　延べ 627 人参加）

市内自治会や老人会などと連携し、市内の河川の多くが流入する家棟川で手漕ぎの小型舟に乗り、豊かな生態系の観察を行う一方、河川の水質や散在性ごみの状況を直接実感する学習会を開催した。

② ホタルの住める川づくり （延べ 15 回　延べ 121 名参加）

市内５ヵ所でホタルの幼虫を飼育し川に放流したが、気候や周辺環境等の影響からか、残念ながらあまり成虫にならない結果となったが、野田自治会では観察会を実施した。また北野小学校では、授業の一環としてホタル学習会を実施し、ホタルの生態をとおして環境の大切さを伝えた。

③ 流域ネットワークづくり

（水•生物多様性フォーラムの開催　平成 26 年６月 29 日　47 名参加）

今回は、滋賀県「しが生物多様性大賞」を受賞したことを契機に、これまでの「水フォーラム」から「水・生物多様性フォーラム」とし、水源の山から、森、里川、田畑そしてびわ湖まで、流域のそれぞれの場所で水環境、そして生態系の保全に取り組む団体や自治会、企業からの活動報告を行った。

④ 河川清掃活動 （年間９回実施　延べ 215 名参加）

市民団体や地域、企業などとも連携し、家棟川を中心に、あやめ浜、新川、童子川、中の池川など積極的な活動を実施した。生活ごみが多く流れてきているのが現状であるが、根気強く継続してゴミの回収を行った。

⑤ 生態回廊の再生（年間 17 回実施　延べ 350 名参加）

琵琶湖環境科学研究センターの協力のもと、家棟川流域８ヶ所で生態調査を実施。貴重なタナゴなどの種が確認されている。また、遡上しているビワマスを保護するため、県の事業と連携し、魚道作りを模索している。

⑥ 活動の評価

これまでの家棟川流域を中心とした水環境保全活動や、水環境保全意識の醸成を目的とした観光船の運航、生態回廊の再生を目的とした水と生物の総合調査が認められ、公益社団法人日本水環境学会より、平成 26 年度の水環境文化賞を受賞することができた。

2．プロジェクト　：①野洲の里山の自然に触れよう、知ろう
②野洲の自然を次世代につなぐ「自然案内人」を増やそう
③山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう

① 里山・林道の保全作業　（25 回実施　延べ 332 人参加）

定期的（毎月第 1 土曜日および第 3 火曜日）に里山保全活動を行い、山の林道や周辺整備・登山道整備などを実施した。これにより、主催イベントや散策がしやすく、里山を訪れる登山者の役にも立っている。また保全活動が、地元生産森林組合にとってもよい刺激となっている。

- ➢ 山の林道や周辺整備、登山道の整備・復元
- ➢ 城山の主郭草刈りや曲輪の整備

② 野洲の山を知る探索　（8 回実施　延べ 112 人参加）

毎月第 4 土曜日に、里山の現状や季節ごとに変化する里山の面白さを知る探索をした。またそこでの歴史などを知り、そして大切にすべき自然や水源があることを、子どもや市民に伝える「里山案内人」になろうという思いを強くした。主な内容は以下のとおり。

- ➢登山道への案内板（道標、レスキュー杭）の整備・点検
- ➢鏡山や天山の探索、近江八幡瓶割山城跡見学

③ 子どもや市民が里山に親しむ活動　（5 回実施　延べ 322 人参加）

例年実施し定着化している活動で、市民や子どもたちに地元の山の現状や素晴らしさを伝え、里山の自然の大切さ、重要性について理解を深めていただいている。

- ➢ タムシバ山から城山 花登山　（平成 26 年 4 月 6 日 34 人参加）
- ➢ 篠原小学校「伊勢道峠越え」案内（平成 26 年 5 月 1 日 183 人参加）
- ➢ 守山野洲ガールスカウト里山自然観察（平成 26 年 11 月 16 日 45 人参加）
- ➢ 野洲の秘境割谷から鏡山星が峰登山（平成 26 年 11 月 22 日 36 人参加）
- ➢ 城山初日の出登山（平成 27 年 1 月 1 日 24 人参加 ）

④ 森づくり塾の実施　（4 回実施　延べ 105 人参加）

山部会員や市民が山作業の仕方や生き物・山の魅力・里山の歴史について実習・学習し、里山案内人としての技量や知識を探るために実施。今年度は３期目でテーマは『「里山の自然案内人」になろう』。

1回目：春の里山の自然を楽しみ、山野草を食べよう（平成 26 年 4 月 20 日 26 人参加）
2回目：間伐体験と作業道具の手入れ　（平成 26 年 7 月 6 日 26 人参加 ）
3回目：野洲の歴史を学ぶ「三上騒動」（平成 26 年 10 月 5 日 30 人参加 ）
4回目：山地図の読み方と応急手当（平成 26 年 12 月 14 日 23 人参加）

⑤ 他団体やプロジェクトとの協同活動・交流

農山漁村活性化推進協議会での収穫祭に参加し、山部会の活動をＰＲした。また、自然分野の川プロジェクトと共同で家棟川・びわ湖の生態調査に参加した。活動においては参加者と交流を図ることで、ともに活動参加しようと促し、部会員を増やすよう努め、７人の方に加入いただけた。

⑥ 野洲山の辺の歴史ハイキングコースづくり

昨年度から始めた「野洲山の辺の道 歴史ハイキングコース」を仕上げ、野洲市歴史民俗博物館や市商工観光課等に提出し、今後活用されていくことを依頼した。

⑦ 新クリーンセンター建設造成工事にかかる「タゴガエル生息調査」

現クリーンセンター裏山周辺の環境変化に伴う生物の生息状況調査の一環として行われ、春（５月）と秋（９月）に２回実施した。秋の調査時に３個体確認した。

３．プロジェクト ： 琵琶湖を身近なものにしよう

① 家棟川エコ遊覧・湖魚の伝統食・砂浜学習会の開催

（平成 26 年５月 17 日　54 人参加）

船に乗って川の話や環境の話を聞き、また船上で投網を打って取れた魚の生態調査を行った。その後、家棟川の河口にあるビオトープ内で、湖魚の伝統食を食べながら、「びわ湖の今と昔について」と「家棟川の歴史について」のお話を聞き学んだ。

② あやめ浜まつりの開催 （平成 26 年８月 18 日　112 人参加）

天候不順による順延開催となったが、例年同様多くの方に参加いただけた。あやめ港から沖ノ島周辺を遊覧するクルージング体験、あやめ浜でのシジミ採り体験、湖魚料理による食文化体験など、びわ湖に親しみながら、びわ湖について学ぶことで、水環境の保全意識の高揚を図る啓発イベントとなった。

③ 漁民の森づくり事業の実施（平成 27 年３月 15 日　136 人参加）

びわ湖の水の源を守るために、漁業関係者や生産森林組合と協力し、団体・企業などの参加のもと、水源となる山（大篠原地先）の植樹整備を実施した。

４．プロジェクト ： 葦地帯をみんなで増やそう

① びわ湖環境学習とヨシ苗づくりの実施（中主小５年生対象　延べ 214 人）

公益財団法人淡海環境保全財団と連携し、中主小学校５年生を対象にした環境学習で、びわ湖とヨシについて学習会を行った。また、ヨシ苗ポットづくりも体験し、学校の中庭にある池でヨシ苗の育苗を行った。育てられたヨシ苗はびわ湖岸へ移植した。

１回目：びわ湖環境学習会 （平成 26 年７月４日 104 人参加）

２回目：ヨシ苗ﾎﾟｯﾄづくり、育苗（平成 26 年７月 14 日 114 人参加）

② ヨシ植栽イベントの開催 （平成 26 年 11 月８日　270 人参加）

ヨシ群落を再生しようと、各種団体や企業などと連携し、ヨシの植栽を行う市民参加型イベントを開催した。今回は企業からの参加者が多く、昨年の倍以上の参加者数で 1,300 株のヨシ苗ポットを植栽した。同時にびわ湖岸の景観を保全するため、松林の保全（浜草刈作業）を行った。

５．プロジェクト ： ①まちなかの緑ボリュームアップ大作戦
②河辺林の再生、③鎮守の森再生

① 河辺林の保全活動 （40 回実施　延べ 506 人参加）

野洲川河辺林（野洲川北流跡自然の森）において、毎月第１火曜日、第３土曜日および第４木曜日の定例活動、そしてイベント前の臨時活動日にて保全活動を実施。主な保全活動としては、散策路が通行できるよう竹林伐採の整備のほか、実生ひろば・第二ひろばを中心とした実生育成のための草刈を行った。

② 河辺林での自然林学習イベント （４回実施　延べ 313 人参加）

➢ カブトムシ幼虫観察会 （北野小：平成 26 年５月 29 日 約 80 人）
（野洲小：平成 26 年６月３日 約 150 人）

北野小学校３年生および野洲小学校２年生を対象に、野洲川北流跡自然の森にて、カブトムシの幼虫観察会を実施。森の中を散策しての自然体験活動をした。

➢ タケノコ掘りイベント （平成 26 年６月 14 日　50 人参加）

小学生以下とその保護者を対象に、タケノコ堀りをして焼きタケノコの試食をし、身近な河辺林の自然の恵みを体感できた。

➢ 秋の自然観察会 （平成 26 年 11 月 16 日　33 人参加）

子どもと保護者を対象にした森の中を巡る自然観察会を開催。火起こしや竹・ドングリ細工といった体験をし、また焼き芋も味わい、楽しみながらの自然観察会となった。

③ 公共施設の緑化

市民活動団体（レイカ野洲）の主催による三上保育園の樹木剪定に参加し、園の庭や周りの落葉高木、サクラ、イチョウ、モミジなど、自然の樹形を保持しながら、過去に受講した剪定講習会の知識を活用して剪定した。また２月と３月には、野洲図書館の樹木植樹（計 21 本）及びクロガネモチ、ケヤキの樹木養生を行った。さらに、北野小学校応援団と協働で校内にサツキ 30 本を植樹、そして、さざなみホール敷地内に植樹と樹木の根元に土・肥料を追加し土壌改良も行った。

④ 鎮守の森の保全

平成 27 年２月 22 日、八夫地域にある高木神社にて、地域の子ども会と自治会との協働で、子どもたちが神社の森にある 25 種類の樹木に名札プレートをつけた。名札プレートの作成や子どもたちへの案内は滋賀県立大学エコキャンパスプロジェクトの学生が協力してくれた。

⑤ 緑化のための研修・啓蒙

樹木医を講師として、自治会関係者および一般参加者等を対象に、樹木管理の基礎と剪定講習会を実施。会場をさざなみホールとして、中主地区を重点的に参加者を呼びかけ実施した。

- ➢ 樹木の管理と剪定講習会 （平成 27 年３月 28 日　30 人参加）

６．プロジェクト ： 環境保全型農業推進計画

① 魚のゆりかご水田事業の啓発

魚道を整備し生態系に配慮することにより、びわ湖から遡上するフナやナマズなどを水田で育てる減農薬栽培を２地区（安治、須原）で実施した。面積は、安治：2,000ａ、須原：900ａの合計：2,900ａ。

- ➢ 生き物観察会の実施（須原地区で実施）（６月 21 日、200 人参加）
  子どもを対象に、水田で孵化したフナやナマズなどの観察会を実施し、田んぼで生きものが安心して暮らせることを実体験を通じて学習した。
- ➢ 魚のゆりかご水田米の普及啓発
  ＪＡ等と連携して、おうみんちでの収穫感謝祭および野洲市農山漁村活性化推進協議会の収穫祭（コミセンひょうず）にて「魚のゆりかご水田米」のＰＲを行った。

② 環境保全型農業研修会

市外からの参加も対象に、環境配慮型有機稲作の技術普及活動に取組んだ。
なお、平成 26 年度における市内の無農薬有機栽培面積は 1,388ａ。
（平成 26 年度環境保全型農業直接支払交付金の状況より）

エコ・資源分野　事業報告

１．プロジェクト ： みんなで進める環境学習

① 環境学習会の実施

古紙を利用し、紙漉きの要領でつくるリサイクルペーパーアートを出前講座として実施した。参加者には、紙のリサイクルについて考えていただこうと趣旨理由も伝え、環境意識を高める機会をつくった。

➢ リサイクルペーパーアート　市内自治会館、コミセン等
（5 月～9 月　4 回実施　延べ 136 人参加）

２．プロジェクト ： 生ごみ資源化システムづくり

① 生ごみ再資源化先進事例視察（平成 26 年 11 月 11 日　20 人参加）

循環型社会に向けた先進的なシステムを構築している企業での、生ごみ処理、再資源化の取り組みについて視察し、さまざまな技術や知識などの情報収集を図った。また、視察先では生ごみに限らず、古紙や空き缶等の廃棄物処理も行われており、まち・くらし部会の「ごみを減らそうプロジェクト」とも合同で視察した。

➢ 視察研修先：安田産業グループ（長岡京市）

３．プロジェクト ： てんぷら油を捨てずにエネルギー（BDF）化しよう

① 使用済み（賞味期限切れ含む）てんぷら油の回収

市民団体エコロジーマーケットやすの会と連携し、毎月第４土曜日に回収。また市の回収ＢＯＸで使用済み天ぷら油の回収も実施した。

➢ 回収量Ｌ　：　今年度 5,136 リットル（前年度 5,310 リットル）
- エコロジーマーケットやすの会　　1,016 リットル
- 野洲市回収 BOX（市内 13 箇所）　　4,120 リットル

➢ エコロジーマーケットやすの会は、市民活動としてこれまで毎月第４土曜日に使用済み天ぷら油の回収を継続して行ってきた。今回２０年という節目を期に、トラックによる廃食油回収は NPO 碧いびわ湖に引継ぎ、今後も回収していく。

② エコキャンドルづくり講座の実施　（2 回実施　141 人参加）

使用済みてんぷら油を捨てずに有効活用することで、身近な環境のことについて考えていただこうと、楽しく学べるエコキャンドルづくりの出前講座を、やすまる広場や老人クラブで実施した。

4．プロジェクト ： お得で楽しいリユースステーションをつくろう

① リユースセンターでの無償譲渡会実施

廃棄物として出された粗大ごみや陶器類等の有効利用を促進するため、リユース無償譲渡会を実施した。また、リユース会場には旧野洲市商工会中主支所の跡地を活用し、より効率的な運営方法について協議を重ね、物品の陳列や配置等の整備を行った。

➢ 譲渡会の実績

（平成 26 年 6 月 14 日開催分　37 人参加）

出品数	成立数	譲渡率	その他
34 点	17 点	50.0%	陶磁器、小物等多数譲渡

（平成 26 年 12 月 13 日開催分　45 人参加）

出品数	成立数	譲渡率	その他
43 点	23 点	53.5%	陶磁器、小物等多数譲渡

※出品および成立数の数値は、タンスや机などの大型物品の数。

② 先進地への視察 （平成 26 年 11 月 11 日　20 人参加）

リユースの先進的な取り組みについて視察すべく、先述の生ごみ再資源化先進事例視察とセットで、常設展示されているリユース施設を訪問した。平成 28 年 10 月に稼動予定している新クリーンセンターにおけるリユースステーションの管理運営を見据え、課題や持続可能な運営方法等について、野洲市クリーンセンター職員とともに情報収集を図った。

➢ 視察研修先：エコパーク甘南備（京田辺市）

まち・くらし分野　事業報告

１．プロジェクト ： ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち

① 出前講座、キャンペーンの実施

野洲市を背景にした舞台セットとオリジナルストーリーで、子どもたちにもわかりやすく学べる環境啓発人形劇の出前講座を、コミセンやふれあいサロン等で実施した。また出前講座時には人形劇のみだけでなく、ごみ減量・分別クイズを実施するなど、ごみ減量の啓発も行った。

レジ袋削減・マイバッグ持参推進キャンペーンでは、滋賀県とも連携し、スーパー店頭でマイバッグ持参の呼びかけを行った。またキャンペーンに先立ち、市内小売業者４３店舗と各自治会・コミュニティーセンター等に啓発ポスター（１５５枚）の掲示を依頼した。

➢ 出前講座及びキャンペーンの実績

実施日	会場	参加者	内容
平成26年 5月29日	デイサービス 「あいむ祇王」	サービス利用者 35人	啓発人形劇、エコダンス
6月　8日	やすまる広場	やすまる広場来場者 55人	啓発人形劇、エコダンス
8月22日	コミセンしのはら	わくわく合宿 参加者　65人	啓発人形劇、エコダンス
9月　9日	祇王小学校	4年生 110人	啓発人形劇、分別クイズ エコダンス
9月11日	篠原小学校	4年生 36人	啓発人形劇、分別クイズ エコダンス
11月　6日	市内4店舗	買い物客 啓発ティッシュ配布	マイバッグ持参 調査・啓発
11月12日	山出会議所	山出ふれあいサロン 参加者　21人	啓発人形劇、エコダンス
平成27年 1月26日	野洲自治会館	野洲ふれあいサロン 参加者　36人	啓発人形劇、分別クイズ エコダンス
2月15日	アルプラザ野洲	人権ＹＡＳＵ 来場者　60人（概算）	啓発人形劇、エコダンス

② 先進地への視察 （平成 26 年 11 月 11 日　20 人参加）

３Ｒ（廃棄物等の発生抑制〔Reduce〕、再使用〔Reuse〕、再生利用〔Recycle〕）の推進に関する理解を深めるべく、循環型社会の形成に取り組まれている先進地視察を、先述の通り、エコ資源部会と合同で実施した。

➢ 視察研修先：安田産業グループ（長岡京市）
およびエコパーク甘南備（京田辺市）

２．プロジェクト ： 一人ひとりが自動車社会を見直す『エコドライブ』活動

① エコドライブセミナーの開催（平成 26 年 11 月 18 日　13 人参加）

交通分野での温室効果ガス削減を目的に、省エネ運転を実践するエコドライブの普及を図るため、実車を用いたエコドライブ教習会を実施した。参加者全員において燃費向上の改善が見られ、すぐ実践できる取り組みとして実感できた教習会となった。

３．プロジェクト ： 事業所環境保全取り組み向上プロジェクト

① 環境研修会の開催

（平成 26 年 10 月 31 日 22 人参加／平成 27 年２月３日 26 人参加）

湖南・甲賀環境協会、野洲工業会および野洲市環境保全協定締結事業所等を対象に、事業所における環境保全への取り組みに関する研修を実施した。研修内容は 10 月に「悪臭防止法および臭気対策について」と題して、２ 月には「環境管理と野洲市生活環境を守り育てる条例」をテーマとした研修会を実施した。

その他・関連　事業報告

１．山・川・里・湖の『つながり』再生事業

収穫祭の開催 （平成 26 年 11 月 15 日　約 850 名参加）

野洲市農山漁村活性化推進協議会に参画し、「つながり」再生プロジェクトの企画イベントである収穫祭で、山・川・里・湖の地産地消を図った。

２．緑のカーテン事業

省エネルギー対策として、野洲市役所や市民活動支援センター等の公共施設において、ゴーヤ栽培における緑のカーテンを実施。また事務局環境課では直射日光を避け室温上昇を抑制できるよう「よしず」を設置し、その効果の実証実験を行い、日照側と日陰側の平均温度差が約 3.2℃となる結果を得ることができた。

第２号議案

平成 26 年度　収支決算報告

（収入）　　単位：円

科目	当初予算額	補正予算額	予算現額	決算額	差引き	備　考
会　費	123,000	0	123,000	110,000	△ 13,000	個　人　91（過年度分　1）
						市民団体　20（過年度分　0）
						自治会　18（過年度分　0）
						企　業　13（過年度分　0）
補助金	1,711,000	0	1,711,000	1,711,000	0	野洲市 （環境基本計画推進事業補助金）
繰越金	252,955	0	252,955	252,955	0	前年度繰越金
雑　入	6,000	0	6,000	1,678	△ 4,322	預金利子 出前講座材料負担金等
合　計	2,092,955	0	2,092,955	2,075,633	△ 17,322	

（支出）　　単位：円

科目	当初予算額	補正予算額	予算現額	決算額	差引き	備　考
事業費	1,705,000	0	1,705,000	1,657,939	47,061	自然部会　1,071,037 円
						エコ資源部会　273,804 円
						まち・くらし部会　312,985 円
						緑のカーテン　113 円
事務費	385,000	0	385,000	229,662	155,338	通信運搬費、消耗品費等
予備費	2,955	0	2,955	0	2,955	
合　計	2,092,955	0	2,092,955	1,887,601	205,354	

平成 26 年度　収支決算の結果

収入決算額	2,075,633 円
支出決算額	1,887,601 円
収支差引き額	188,032 円

収支決算による差引き額　**188,032**　円は、平成　**27** 年度に繰越する。

平成26年度 環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」

会計監査報告

監査結果

平成２６年度環境基本計画推進会議「水と緑・安心の野洲」の収支決算について監査を行った結果、帳簿の記載および領収書等の関係書類はいずれも適正に処理され、決算金額は正確であったので報告します。

平成 27 年 4 月 16 日

監 事 中塚 勝

平成 27 年 4 月 16 日

監 事 橋本弥寿雄

第３号議案

平成２７年度　事業計画（案）

各部会の活動方針

これまでの活動を継続して行っていく中で、関係団体・組織との連携や活動の積極的な情報発信を通じて、プロジェクトの組織拡充と活動の成果をめざす。また、より市民が参加できるよう周知や活動のＰＲを図り、会員をはじめ環境保全活動の実践者との連携を深めていく。

自然部会は、県のマザーレイク 21 計画とも引き続き連携を図り、里山から川、緑地、田畑、そしてびわ湖までの一連の自然環境の保全をめざした活動を展開することで、多くの市民に対してプロジェクトの趣旨を普及啓発するとともに、活動の認知度を高めていく。

エコ資源部会は、環境負荷の少ない循環型社会の構築に向けた仕組みづくりを行うため、市民が楽しみながら参加できるプロジェクトの実践を進める。また平成 28 年 10 月に稼動予定している新クリーンセンターにおいて、リユースの効率的な運営や資源の有効活用等を検討し、将来を見据えたリユース展示譲渡会の開催をする。

まち・くらし部会は、一人ひとりが身近な暮らしで実践できる環境に配慮した行動（レジ袋の使用削減、エコドライブ）を普及させるため、事業者や他の関係団体と連携した仕組みを構築することで活動の成果をめざし、市内小学校等への出前講座も積極的に実施する。

自然分野　事業計画

１．プロジェクト ：『おらが川』人が親しめるきれいな川づくり

予算　250 千円

① 家棟川エコ遊覧（櫓漕ぎ体験、自然観察学習船）の運航（4 月～3 月予定）
② ホタルの住める川づくり
③ 里山・森・川・田畑・びわ湖の「水」フォーラムの開催（6 月予定）
④ 河川清掃活動
⑤ 家棟川流域の生態調査

２．プロジェクト ：①野洲の里山の自然に触れよう、知ろう
②野洲の自然を次世代につなぐ「自然案内人」を増やそう
③山の木を活用し、市民の手で野洲の山を守ろう

予算　180 千円

① 里山・林道の保全作業、間伐材の活用、歴史の道や場所の保全
特に城山の整備を重点的に行う。
山作業第１土曜日（定例山作業） 第３火曜日（平日山作業）
第４土曜日（野洲の山を知る探索）

② 子どもや市民が里山に親しむ活動
春　４月５日　春のタムシバ山 花登山
　　５月１日　篠原小学校　伊勢道峠越え案内
秋　10 月　　野洲幼稚園の５歳児「里山での自然体験会」
　　11 月　　天山登山
やすまる広場や収穫祭等のイベントを通して、山部会の活動や山の大切さ、素晴らしさを市民にアピールする。

③ 第４期「森づくり塾」の開催
ⅰ　5月３１日 「コンパスを使って地図を見ながら山歩き」
ⅱ　7月１２日 「里山の昆虫」
ⅲ　10 月下旬 「山作業の技術」
ⅳ　１１月８日 「里山の歴史」

④ その他の活動・取り組みとして
➢　クリーンセンター裏山のタゴガエル生態調査を引き続き行う。
➢　他団体（地元生産森林組合等）やプロジェクトとの共同活動を進める。
➢　「野洲山の辺の歴史ハイキングコースづくり」を活用していく。
➢　里山の歴史を知る上で、他の地区の山城の保存管理状況など見学する。

３．プロジェクト ： 琵琶湖を身近なものにしよう

予算　220 千円

① 家棟川エコ遊覧、湖魚食の試食、砂浜学習の開催（ 5 月 23 日）
② あやめ浜まつりの開催（8 月予定）
③ びわ湖の水源地となる里山への植樹活動（冬予定）

４．プロジェクト ： 葦地帯をみんなで増やそう

予算　260 千円

① 中主小学校でのヨシ苗の栽培などを通じた環境学習の実施（6 月予定）
② 市民参加によるヨシ群落の保全を実施（秋冬予定）
③ 県の自然再生事業と連携し、ヨシ群落再生の工法などを検討

５．プロジェクト ： ①まちなかの緑ボリュームアップ大作戦
②河辺林の再生
③鎮守の森再生

予算　200 千円

① 野洲川河辺林（自然林）の保護育成
（毎月第１火曜日、第３土曜日および第４木曜日の定例活動）
② 河辺林での自然林学習イベントの開催
③ 市内の緑化推進、啓発
④ 鎮守の森の再生
⑤ 樹木の管理講習会の実施

６．プロジェクト ： 環境保全型農業推進計画

予算　10 千円

① 魚のゆりかご水田事業の啓発

エコ・資源分野　事業計画

１．プロジェクト ： みんなで進める環境学習

予算　40 千円

① 市民を対象とした環境学習会を実施
- ➢ 古紙を使った「リサイクルペーパーアート」の出前講座の実施
- ➢ 地球温暖化防止に関する学習会の検討

２．プロジェクト ： 生ごみ資源化システムづくり

予算　60 千円

① 家庭で手軽にできる生ごみの減量に向けた取り組み
- ➢ 生ごみ減量に向けた講習会等の検討
- ➢ 先進事例視察等

３．プロジェクト ： てんぷら油を捨てずにエネルギー（BDF）化しよう

予算　30 千円

① 市民団体や NPO 法人と連携して廃食油の回収を引き続き行う。
② 廃食油のリサイクルを楽しむ・使う方法を紹介し、啓発を行う。
- ➢ 廃食油を使った「エコキャンドルづくり」の出前講座の実施

４．プロジェクト ： お得で楽しいリユースステーションをつくろう

予算　50 千円

① リユース品の提供と展示譲渡会への参加を呼びかける
② リユースセンター（旧野洲市商工会施設）の整備を進め、展示譲渡会の充実を図る。
③ 自転車や家具・玩具などの整備修理に関することや、リユース品回収方法を検討する。

まち・くらし分野　事業計画

１．プロジェクト ： ごみを出さない売り方・買い方が広がるまち

予算　150 千円

① マイバッグ持参推進活動（キャンペーンの実施）
② 新クリーンセンター稼動を見据えたごみ減量の重要性を広く市民に啓発
③ ごみ分別マナーの啓発
④ 新しい出前講座に向けての取り組み（紙芝居等）
⑤ グリーン購入・地産地消等に関する学習会・視察研修の実施

２．プロジェクト ： 一人ひとりが自動車社会を見直す『エコドライブ』活動

予算　95 千円

① エコドライブ講習会の開催
② 市民や市内事業所へのエコドライブの重要性の啓発

３．プロジェクト ： 事業所環境保全取り組み向上プロジェクト

予算　15 千円

① 環境研修会の開催
➢ 市内事業所を対象に、環境関連法令の制定・改正や環境管理の技術等を理解し、事業所等地域環境の環境保全に積極的に取組んでいただくことを目的に実施する。

その他・関連　事業計画

１．山・川・里・湖の『つながり』再生事業

➢ 農山漁村活性化推進協議会に参画し、つながりイベント（収穫祭）において、地産地消を推進する。

２．緑のカーテン事業

➢ 室温上昇を抑制し、エアコンの省エネを図り、地球温暖化対策に資することを目的に、緑のカーテンを普及する。また事務局の環境課では引き続き「よしず」を設置し、同様の効果が得られるよう実施する。

第４号議案

平成 27 年度　予算　（案）

（収入）　　単位：円

科目	当初予算額	前年度当初予算額	差引き	備　考
会　費	119,000	123,000	△ 4,000	個人　@　500　×　**100** 人 市民団体　@　1,000　×　**20** 団体 自治会　@　1,000　×　**19** 団体 企業　@　2,000　×　**15** 社
補助金	1,600,000	1,711,000	△ 111,000	野洲市 （環境基本計画推進事業補助金）
繰越金	188,032	252,955	△ 64,923	前年度繰越金
雑　入	1,968	6,000	△ 4,032	預金利子 出前講座材料負担金　等
合　計	1,909,000	2,092,955	△ 183,955	

（支出）　　単位：円

科目	当初予算額	前年度当初予算額	差引き	備　考
事業費	1,561,000	1,705,000	△ 144,000	自然部会　**1,120,000** 円 エコ資源部会　**180,000** 円 まち・くらし部会　**260,000** 円 緑のカーテン　**1,000** 円
事務費	230,000	385,000	△ 155,000	通信運搬費　**80,000** 円 備品購入費　**80,000** 円 消耗品費　**70,000** 円
予備費	118,000	2,955	115,045	
合　計	1,909,000	2,092,955	△ 183,955	